



◆巻頭言 小児外科 鈴木 孝明

朝夕通勤で車を走らせていると、タワーマンションが次々に立ち並び、11月に移転予定の豊洲市場もだいぶ出来上がってきたのを目にします。新しい街、日本で数少ない小児人口の増加地域での小児医療の重要性をひしひしと感じる今日この頃です。

小児外科はそんな小児医療の一端を担う外科治療のスペシャリストです。手の中におさまるような新生児の先天奇形から、私よりも大きな中学生の急性腹症の手術まで、小児外科の扱う疾患は多岐に及びます。現在われわれ江東豊洲病院小児外科は、指導医、専門医を含む3人で、小児内科、新生児科と連携して24時間365日体制で緊急にも対応した診療を行っています。小児外科の診療の難しさは、疾患の希少性と多様性、技術的困難さに加え、長期的な予後を見据えた治療が必要であることで、最近では成人期を迎えたトランジション症例の対応が学会でのトピックスの1つになっています。

漫画ブラックジャックの中で、とある国で命を救った子が、後の大統領になるという話があります。われわれが治療した子が将来の日本、世界を担う大人物になるかもしれないという無限の可能性を夢見て、これからも仕事に邁進していきたいと思います。



昭和大学江東豊洲病院

第28号のトピックス

- 巻頭言 こどもセンター
小児外科 鈴木准教授
- 第1回東京内視鏡ライブ
- 第2回江東豊洲心血管
カンファレンス開催のご案内
- シンガポール国立大学の
看護学生との交流

◆内視鏡TOKYO Live 2016

(第1回東京国際内視鏡ライブ)

前日の夜中まで病院を挙げての必死の準備

平成28年7月2日、3日の2日間、昭和大学江東豊洲病院にて、第1回目の東京国際内視鏡ライブが開催されました。このライブコースは、国内外10人のファカルティーによる、世界最先端の内視鏡治療を供覧できるライブ・デモンストレーションです。もちろん、江東豊洲病院では初めてのライブコースであり、病院を挙げての全面的な協力をいただきまして、ようやく開催にこぎつくことができました。多くのスタッフが、ミーティングを重ね、着々と準備を進め、当日を迎えることができました。

2日間で200名に迫る参加者！そのうち30名の外国人！！

コースダイレクターである井上晴洋教授のopening remarksで開会し、引き続きPhilip Chiu先生（Chinese University of Hong Kong, Hong Kong）による特別講演、東京医科大学糸井教授によるモーニングセミナーの後、いよいよ、デモンストレーションに移りました。まず、はじめに、井上教授によるPOEM（経口内視鏡下筋層切開術）からスタートし、自治医科大学山本教授



による大腸ESD、Robert Hawes先生（Florida Hospital, USA）によるERCPと続き、午後には再び井上教授によるARMS（内視鏡的噴門形成術）がデモンストレーションされ、もうひとりの海外ファカルティーStefan Seewald先生（Hirslanden Clinic Group Zurich, Switzerland）によるEUS、FNAと続けました。また、国内の7名の国際的に活躍中の先生方においても、2日間にわたり ERCP、EUS、ESDを行って頂き、最先端の内視鏡技術を堪能し、勉強することができました。

開催2日間で、18名の患者さんの治療を行いました。全症例とも、麻酔科鈴木教授、大塚准教授をはじめとする麻酔科医師による、呼吸循環管理の下、治療を行わせていただきました。そして、すべての予定していた治療を高い完成度で完遂することができました。まずは患者さんが、合併症なく全員無事に退院されましたことを、ご報告させていただきます。



学会総参加人数は、2日間でのべ186名に及び、そのうち約30名が海外からの参加でした。会場の病院講堂が、満員になり、第一回目のライブコースとしては予想を上回る成果でした。

全編英語のみ、そして外国人ファカルティーによる世界レベルのライブ

ところで、今回のコースには、2つの“国内初”がありました。1つは、国際化の観点から、全編を英語のみ、同時通訳なしで通じたことです。英語だけですと参加者が途中から帰ってしまわれるかなどと心配しましたが、最後まで、全員ライブに集中していただき、われわれの心配は杞憂でありました。参加した皆様からも大変な高評価をいただきました。

2つめは、外国人のライブを厚生労働省から正式の許可を得て行えたことです。半年前から準備をして、臨床教授としてのライセンスをいただきました。その結果、アメリカ、ヨーロッパの最高レベルのERCP、EUS-FNAを拝見できました。若い先生のたいなる刺激になったと思います。それぞれの患者さまも大変喜んでおられました。



ご協力いただいた方々への御礼

今回のTOKYO Live 2016の開催にあたり、院内のあらゆる部門の方々と、関連企業の皆様に多大なるご協力・ご支援をいただいたことに感謝いたします。すべての皆様のご協力のお陰で、第1回東京国際内視鏡ライブを無事に終えることができました。本当にありがとうございました。

来年は2017年4月29日、30日に予定されています。皆さん、また来年もよろしくお願いいたします。

消化器センター長・教授 井上 晴洋

東京ライブ 事務局長 出口 義雄

第2回江東豊洲心血管カンファレンスのご案内

来る9月3日（土曜日）に昭和大学江東豊洲病院9階講堂において第2回江東豊洲心血管カンファレンスを開催させていただきますことになりました。今回は、**狭心症や心筋梗塞によるリモデリングが左室を拡大させそれに伴って発症する機能性僧帽弁閉鎖不全症：『虚血性僧帽弁閉鎖不全症』**をテーマにしました。病態の解明、外科的治療の適応・タイミング等多くの課題が残っている疾患です。特別講師として「**順天堂大学 心臓血管外科 天野教授**」「**産業医科大学 循環器内科 尾辻教授**」を始めとする日本を代表する多くの心臓外科、循環器内科の先生方にご講演を賜る予定です。最善の診断と治療につながる徹底討論ができればと考えております。本カンファレンスは、循環器内科・心臓血管外科勤務医の皆様、および地域の開業医の先生方、パラメディカルの方々に広く出席を募り、心臓・血管疾患についての最新の知見を議論することを目的としております。多くの方のご参加、皆さんの活発な討論を期待しております。

循環器センター長 心臓血管外科教授 山口裕己

◆シンガポール国立大学の看護学生との交流

7月7日、今年もシンガポール国立大学（National University of Singapore、以下NUS）の看護学生9名が来院しました。当院近くの東京有明医療大学とNUS間で交換留学制度があり、このプログラムの一環として当院での看護体験と病院見学が行われたのです。

簡単な昭和大学並びに江東豊洲病院の説明の後は、救急病棟、手術室、ICU・CCU、周産期センター、6A病棟、6B病棟、8A病棟に分かれて1対1の看護師の指導のもと看護体験を行いました。また、午後からは、防災センターの協力を得て、建物地下の免震ゴムやダンパー、非常用発電機設備、備蓄倉庫など災害対策設備の見学を行いました。

NUSの学生からは「薬のダブルチェックなど安全対策が確実にされている」「院内が非常に整理整頓されている」「配薬カートやエアシューター用スピッツ立てなど薬や検体を丁寧に扱うための物品が整っている」「災害への備えがなされている」などの感想が聞かれました。また、私たちがシンガポールの看護の様子や病院事情を学ぶことができました。機転を利かせて看護師の仕事を手伝ったり、様々な質問をしたりするNUSの学生の姿勢は素晴らしく、大きな刺激を受けるとともに「NUSの学生だけは卒業と同時に国家試験免除で看護師資格が得られる」ということの意味も理解することができました。

最後に、見学の実施にあたっては、英語での各部署の看護師による案内、医師による治療説明など多くの協力がありましたことをお伝えします。また、患者さんも優しく学生に声をかけて頂き、学生にとって心温まる経験となりました。多くの方々のご理解とご協力に感謝いたします。



看護部 中村 綾子

編集後記 横山 登

ついに2週間後に4年に一度のスポーツの祭典・夏季オリンピックが、南米初のブラジルのリオデジャネイロで開催されます。英国留学時代の友人がリオデジャネイロ生まれで市街の話をよく聞いたことが思い出されます。そんな南米の都市に初のオリンピック聖火がともされ、多くの人々が観戦に訪れ賑わうことでしょう。また、各国の代表選手が熱い戦いをしている競技に、世界中の人々が私をふくめて眠い目をこすりながら夜遅くまで観戦し感動を与えてくれることでしょう。前回のロンドンオリンピックでは、日本勢は多くのメダルを獲得しましたが、今回はそれを超える成績を日本中の人々が期待しています。オリンピック開催中の2週間応援のあまり寝不足になり体調を崩したり、夏の暑さで夏バテを起こさぬように自己管理しながら秋の訪れを待ちましょう！！



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL03-6204-6000（代表）

発行責任者：新井一成 編集責任者：長谷川真



Showa University Koto Toyosu Hospital